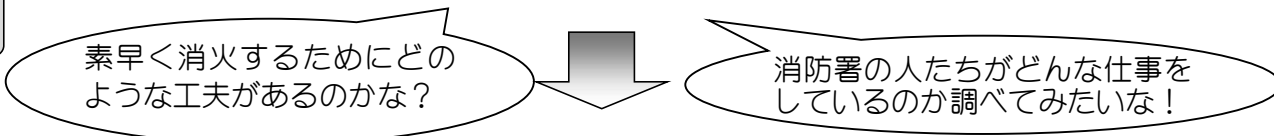


<p>小単元名 p.44～47</p>	<p>①火事から くらしを守る</p>	<p>小単元の 目標</p>	<p>火事から地域の人々の安全を守る働きについて、施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、見学、調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめることで関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解するとともに、学習したことを基に地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとする。</p>
-------------------------	-------------------------	--------------------	---

つかむ

p.44◎火事が起きたら-全焼までの時間

- ・全焼までの時間は「早い」という認識と、仙台市の火災のデータから、仙台市ではどうしてほとんどの火事が全焼する前に消し止められているのかという疑問から予想を立て、小単元の学習への関心を高める。
- ・仙台市の火災件数、主な出火原因のグラフの一部を隠して、クイズ形式で資料を提示する活動も考えられる。



学習問題
火事が起きたときや火事をふせぐために、だれが、どのような働きをしているのでしょうか。

調べる

p.45
◎いざという時のために
-消防署の取組-

〈消防署の見学〉
どんなことを見たり、聞いたりするか、見学の前に子供たちに決めさせておく。

〈事前指導の内容〉
準備物
見学の視点や質問の内容
挨拶や話の聞き方
「見学カード」への記入の仕方
インタビューの仕方

※消防署の見学が実施できない場合は、教科書や副読本、webなどの資料を活用して調べ学習に取り組ませる。

p.47
◎火事をふせぐためにできること

火事を防ぐために消防署や地域の人々がどんな努力をしているのか調べる。

〈消防団について〉
消防団の取組について説明し、地域にも安全を守っている人がいることに気付かせる。可能であれば、消防団の人を招いて直接話を聞くとよい。

※情報コーナー

仙台市消防局	2 3 4 - 1 1 1 1
青葉消防署	2 3 4 - 1 1 2 1
宮城野消防署	2 8 4 - 9 2 1 1
若林消防署	2 8 2 - 0 1 1 9
泉消防署	3 7 3 - 0 1 1 9
太白消防署	2 4 4 - 1 1 1 9

まとめる

p.47
◎標語を考えたりポスターを作ったりしよう

- ・学習したことをもとに、自分たちにできる防火の取組を考え、発表させたり、標語やポスターで表現させたりする。
- ・防火につながるキーワードを発表させ、それをつなぎ合わせてクラス標語を作る活動なども考えられる。



教科書では、金沢市の事例を取り上げている。事例地は異なるものの、学習の流れやイラスト資料等は生かせるところが多い。教科書の内容も生かしつつ、地域の実態に合わせた指導を行うように配慮する。

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは、関係の諸機関が連携して消火や救助に当たるなど、一刻を争って事態に対処していることに気付き、自分の生活と関連付けながら、防火に対する意識を向上させ、実践的な態度を養うことである。導入段階で火事の恐ろしさに目を向けさせ、身近な防火設備を調べることによって、計画的な防火対策を行っていることに気付かせていきたい。調べ学習として、消防署の見学を取り入れたい単元である。

写真「火災・消火活動」

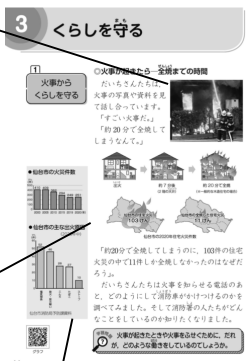
写真やVTRで火事の恐ろしさを捉えさせるとともに、消火活動を行う消防士に着目させることで、消防の仕事について関心を持たせる。

資料「全焼までの時間と仙台市の住宅火災件数」

全焼までの時間は早いという認識を持たせると同時に、火災に対して全焼の数が少ないことに着目させる。

グラフ「仙台市の火災と主な出火原因」

火災は減少傾向から横ばいで推移している。出火原因は電気関係、放火が多い。



※情報コーナー

消防探検 京都市消防局
<http://www.city.kyoto.lg.jp/shobo/>
 仙台市では青葉消防署に消防情報センター（通信指令室）がある。

写真「訓練の様子」

火事が起きたときを想定し、普段から訓練していることに気付かせる。
 ※消火→濃紺 救急→灰色
 救助→橙色と仕事の内容によって制服の色が決まっている。

「消防士さんの話」

いち早く現場に駆けつけるための努力に気付かせる。

※情報コーナー

- 仙台市消防局 234-1111
- 火災情報テレホン 234-0119
- 青葉消防署 234-1121
- 宮城野消防署 284-9211
- 若林消防署 282-0119
- 泉消防署 373-0119
- 太白消防署 244-1119
- 宮城消防署 392-8119

写真「県外での合同訓練の様子」

消防の活動は、市内にとどまらず、世界の国々や、他の地域にも及ぶことを確認したい。

本文「消防指令センターの人の話」

消防指令センターについて説明し119番通報があると関連機関と協力して救急体制を取っていることを気付かせる。仙台市のみ活動にとどまらないことに触れる。なお、教科書では「通信指令室」となっているが仙台市消防局では「消防指令センター」と広報しているが役割に違いはない。

図「火事が発生した時の連絡の仕組み」

119番通報した際の動きを図に表した。消防署だけではなく消防指令センターから様々な場所へ向かっていることに気付かせる。

写真「みんなが考えて作った防火ポスター」

調べたことや学習したことを基に、自分たちのできる防火の取組を考え発表させたり、標語やポスターなどで表現させたりする。

写真「防災訓練」

各団体に出向き、火災予防に対する指導を行ったり、市民に対する広報活動を充実させたりして、火災を防ぐ取組をしていることを理解させる。

本文「消防団の人の話」

消防団について説明し、地域にも安全を守っている人がいることに気付かせる。また、可能であれば消防団の人を招いて話を聞くとよい。

<住宅用火災警報器について>

2006年の消防法の改正により、新築住宅への設置が義務付けられた。既存住宅についても、2011年の5月までに設置することが義務付けられている。

<消防団について>

普段は別の職業で活躍している人たちが、地域で災害が発生すると消防団員として消火や救助等の活動に当たる仕組みになっている。仙台市の消防団は市内の消防署ごとに設置され、7消防団、56分団、約2,000人の消防団員で構成されている。うち、女性消防団員は約130人である。

※情報コーナー

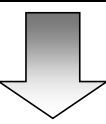
仙台TUBE
 「教えてセンパイ 消防団」の動画では消防団で働く人の思いを知ることができる。

小単元名 p.48～51	②事故や事件から くらしを守る	小単元の 目標	事故や事件から地域の安全を守る働きについて、施設・設備などの配置、警察署による緊急時への備えや対応などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめることで関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや関係機関が地域の人々と協力して事故の防止に努めていることを理解できるようにするとともに、学習したことを基に地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとする。
-----------------	--------------------	------------	--

つ
か
む

p.48
◎ 事故や事件から人々を守る。
・写真を活用して地域の安全を守るための取組について発表し合い、小単元の学習への関心を高める。
・「まもらいだー」の方や地域にある交番の警察官などをゲストティーチャーとして招き、話を聞くという活動も考えられる。

事件や事故が起きてしまったら、どうすればいいのかな？



警察署の人たちがどんな仕事をしているのか調べてみたいな！

学習問題
事故や事件から私たちの安全を守るために、だれが、どのような働きをしているのでしょうか。

調
べ
る

p.49
◎ 事件をふせぐために

- ・事件を防ぐための警察署や地域の人々の取組について調べる。

〈仙台市のあきすの数〉—グラフ—

- ・空き巣の件数が平成24年に比べて減少していることをつかませ、事件を防ぐ取組について調べたり、考えたりする。
- ・自分たちが住んでいる地域にも、「防犯ボランティア」や「こども110番の店」「交通指導隊」など、まちの安全を守るための取組があることを紹介する。

*情報コーナー
宮城県警察本部 221-7171
<http://www.police.pref.miyagi.jp/>



p.50
◎ 交通事故をふせぐために

〈仙台市の交通事故の数〉—グラフ—

- ・グラフから交通事故の件数やけがなどをした人の数が減ってきていることを読み取りその理由を調べたり、考えたりする。

〈交通管制センターの見学〉

- ・宮城県警察本部内にある施設で、110番を取り扱う通信司令室に併設しており、併せて見学できるようになっている。

〈交通事故の時の連絡の仕組み〉

- ・前小単元の学習と関連させながら、県警察本部を中心にいろいろな役割を持った人たちが協力して事故を処理していることに気付かせるようにする。

ま
と
め
る

p.51
◎ 安全に安心してらせるために

- ・まちの安全を守るために、自分たちにできることは何かを大単元で学習したことを生かして考えさせたい。表現活動としては、防犯標語やポスターづくり、安全安心マップの製作などの活動が考えられる。



教科書では、東京都三鷹市を取り上げている。事例地は異なるものの、学習の流れやイラスト資料等は生かせることが多い。教科書の内容も生かしつつ、地域の実態に合わせた指導を行うように配慮する。

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは、地域社会の人々の安全を守るための関係機関の働きに気付き、従事している人々、地域の人々の工夫や努力を理解することである。導入段階でゲストを招くなどの工夫をし、地域の安全を守っている人々の取組を調べる学習問題を設定する。前小単元との関連を図りながら、身近な生活から「安全」について考えさせていく。小単元のまとめの段階では、学区内の「安全安心マップ」作りなどの活動を取り入れるとよい。

写真

写真を基に話し合わせ、自分たちのまわりには、安全を守る人がいることに気付かせる。

キャラクターの吹き出し

ここでは二人の会話から警察署の仕事に絞り込んでいくようにする。

* 情報コーナー *

- 宮城県警本部 221-7171
- <http://www.police.pref.miyagi.jp/>
- 泉警察署 375-7171
- 仙台北警察署 233-7171
- 仙台中央警察署 222-7171
- 仙台東警察署 231-7171
- 仙台南警察署 246-7171
- 日本道路交通情報センター 050-3369-6666

グラフ「あきすの数」

空き巣の件数は平成24年から、減少傾向にある。事件を防ぐための取組に目を向けさせるための資料とする。

学び方コーナー

算数で学習した棒グラフの読み取りが確実にできるようにする。

図「事件の時の連絡の仕組み」

この図を基に、事件に素早く対応するための工夫について気付かせる。



グラフ「交通事故の数」

交通事故の数は減少してきているものの、2000件以上発生していることを読み取り、事故を防ぐ取組が必要なことに気付かせたい。

写真「宮城県交通規制センター」

宮城県警察本部内にあり、仙台市内及び周辺の信号機を制御している。車両感知器やテレビカメラを通して道路の渋滞状況が分かるようになっている。110番を取り扱う通信司令室に併設しており、併せて見学が出来るようになっている。

図「交通事故の時の連絡の仕組み」

* 人身事故のときの対応例
県警察本部を中心とした事故発生時の連絡の仕組み、関係諸機関の協力を気付かせる。また、事故に素早く対応するための工夫についても気付かせる。

写真「パトカー・白バイのパトロール」

パトロールを行うことで、交通事故を防ぐ取組をしていることを理解させる。

本文

まちの安全を守るために、自分たちにできることは何かを大単元で学習したことを生かして考えさせたい。表現活動としては、防犯標語やポスターづくり、安全安心マップの製作などの活動が考えられる。

